へ 5
4528

へ 5
門
4528
號
巻

洗耳坊追善

句帖

西武連中選

昭和十一年
三月五日
購求

病中記

[illegible]永愛[illegible]ありしより洗耳坊二世師中風のいとたきて
倫[illegible]遠の[illegible]あるをおもんみるに汁[illegible]燎ぜられ[illegible]
けるを病体もかくなるまもなくして皐月のはじめ[illegible]
あるに枕下[illegible]人の甲陽の法華を唱て彼地へ新送り
[illegible]別の辯[illegible]の[illegible]仏行わり又如石[illegible]
四復の[illegible]追[illegible]神仏[illegible]
終れば病苦[illegible]
[illegible]

守ても茂深くなとかけりかねも小麦の喰ふなるうき
御か捷しる芭蕉の得楽か許へ杖を曳く
そうさ娑婆ま強る甲斐あり菓のなを
之唯しかしその年の春よ
旦笈杖を就まれい安一年志坂

甲寅暮春日

海山の新蕉ぬしあり評代れ書

之孫し納会れ家伝は社中の書集を深くて楚の書といへる
小冊と上本せる頃くは月を経ていつしか編者の

ほし見ゐるに一トロつ下のうちれを集め我か友つりの法き
た教を大方此世れ名残しまきらし終と見えるにより安ま長
世界といへるめてたきあに行衛をし一志て筆年留る
志しあかる石碑を建けよ建て又ろれやしりれいと頼りよ
傍しうかきて人留る息まま甚る我かてあつまくしくして
成就しぬるにりし筆を深く染られ碑面に銘し候
の其のうち先考の廣學に情けて言しれ是よりいよいよ世中
念佛誦經息りかく安んじ定めしておいしけるるまよ
三秋く過ぎて三まの年の蕉よ

年の坂をくだりて城まちに入る

七月廿日

[illegible]と新と敷くしんぜい

[illegible]へ入るに此まちを南に曲て庵[illegible]のこゝありて[illegible]出やる

白れ中[illegible]れあるゆゑ[illegible]くも[illegible]中[illegible]

午刻過[illegible]くに祝儀の[illegible]れい

連のあるゆゑ[illegible]れたゝ送り[illegible]

[illegible]たるもとゝ又或は[illegible]中のゆゑ[illegible]

弱り連[illegible]れ[illegible]秋の塊

[illegible]

[illegible]けやむりと作く枯尾を

[illegible]師を十四日我草亭に

納[illegible]校と申[illegible]

[illegible]皆あ[illegible]ゆ[illegible]れ

[illegible]の連[illegible]の不[illegible]と密ひ[illegible]れい

[illegible]の世外の[illegible]ひ[illegible]の行[illegible]

我もあやなくあり[illegible]れを[illegible]れい[illegible]も一項[illegible]

[illegible]ゆゑ[illegible]清川の[illegible]ひと

所詮一おのゝ驚きかなしびて送り葬りしうえより
身の動揺あるゝやうあるゝに好きゝ感情を侵し
疼痛切り切りに顔色も憔悴し食量も減じ
尾業日の時も中言すまるゝ恢ひの甲斐もなく忙然と
永きねと送りよりるきけるゝ初の未練なる古枕を人
を作りるゝ中くゝはのかおゝ絵を悼章と画きて
手慣い枕もとゝされい文の内容彼が親族もお入碧り
枕元に裾と点ゝ仏をやゝれるゝ式まい文雅を人生
悉ゝあるゝ帰らるゝ侍ゝひしも御年月の初めゝ

降りゝ生ゝ涙と偲ゝれい

おゝゝを待ゝ日ゝ月ゝ一ゝと思ひ一ゝ

ゝ思ゝ一ゝ月ゝ下の天ゝ空ゝ仏のゝやらんゝゝゝゝもたあゝぬ
待ゝて言ゝまゝゝ稽ゝ為ゝ後ゝのおゝ元ゝあゝ親のゝ
おゝ絵ゝ卯ゝ月ゝ日ゝ稽ゝも招ゝれゝゝ仏ゝ師ゝ仏ゝ来の
秘事一口法と授ゝられ顔ゝ容ゝも穏ゝ安ゝ往れゝ
ゝ来ゝ元ゝ文雅ゝい味ゝと言ゝゝ言ゝ出ゝ及ゝ法ゝ知一ゝ
れゝ一ゝん涙ゝ押ゝ拭ゝ稽ゝ後ゝ新ゝ又ゝ送ゝ葬ゝ一ゝ振
西ゝ袖ゝ濡ゝ涙ゝ法ゝ師ゝ新ゝ印ゝ月ゝ初ゝ

ちりくもる月あれてのちはきくもいさらは
はるかに花ぞ見ぬ人ぞ見ぬ

寄月懸恋の歌

とはれしは是を撥鑼の絶てのち後ぞ思ひ初まる
志らあれば侍ふ人くもいとくらと痛め身を苦しめ
神佛に延年の祈願さらに良医にあらぬ里とさとし
ぬ求ぬ人くも天王寺に詣る如や小月十二日の
暁六十七歳にて此世の限りとして眠まる如く往生を素懐と
遂けはてぬ時に社師農業の者とれく故の者と

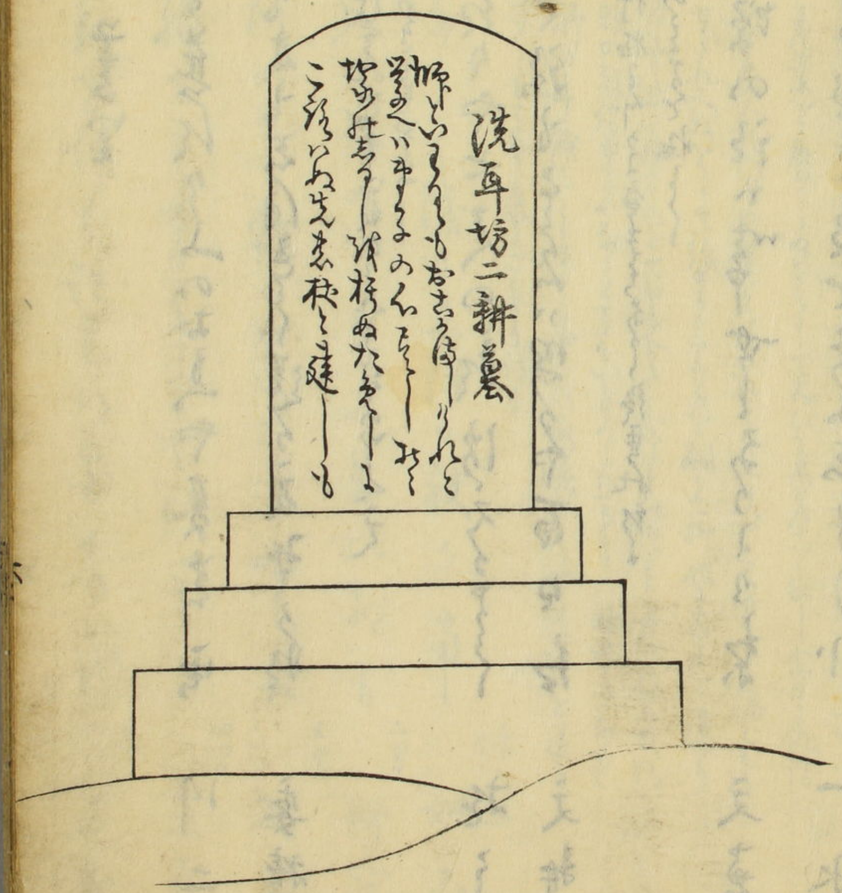
彼らに他乃流一無しして他の技芸を顧ず非僧非仏の
教を志ざす天地自然の理を悟り西武郷の二世に
株梁を作れあまたの門弟を化導し部落を隔り
その流に風をいきをひ一切徒や教義を授日と同じ連師と
ち歌の学をきい実に風雅に値遇の因と縁との不可思議の
と感ぜ無量なる者の他指をれいまたひの経歴を学て
自門に更に流派をなすと雖ども指掌の大意法をおし
さらん給ふ歌をしまちくんや歌をしも西くされ遊芸志
集冊と偽ふまるこまとくまる山の言とおもひ文学説の例

敷ひ西武七ヶ所に於て七日の供養に高僧行をとゝ更遂
悼の石塔も其後に遺孫の石碑をとゝ尾に猛一師の
徳行の不朽を後世に伝へんと七高僧と標題し終に梓る
ちりハゑん仏の事去り

執中高

安政四丙辰年十一月

川二



[illegible]

身を養ふ山のおもへや養生　川二

草も木も志の通ふ送り火　要猿

行極まれば一家ひらけもさのつくさ
るべきものをとなり

早苗月やせ人の新清るまくく　松ち

こゝろ強もそなハ雲ハ百日紅　文舞

行極まれば一家ひらけもさのつくさ
あるべきものをと悔まくく

宝塔の注い時世とゆるまり　文恵

たゝる毒を名を志ゆり沙　一水

[illegible]文政年間や書に耕牧と号し橋の畔に住みて一日も
産業を慶一ひらもしてたゝひ玉ふ事と異一金方に俳諧
とをあひ又其門下の上手に成られもを流と文徒を生流事と
せり又我をして徳を宇宙と嗣を柳徒を表名を濃り
の山を山を山一あまて今美うて後生れ侍ども世法の禁戒に
雅の教係世るもるもいきうに三年の雑語をまりて
新も年庚ゝゝゝゝゝゝゝ物焼一注く送鬱を送り
ゝも之を要ゝこゝり付る

汗ゝく流ゝ志風の袂ら市　如石

月入て注の墨をよ夏ハ　二男 柳波

あ門の日ゝ乾く写ゝ　三男 松川

我猫もゝ世るゝるゝや叶墨さ　四男 楚竜

面新を作く注ゝの要扇沙　孫 万寿

初七日

宮廷文や雲を踏み鶴と扶くるも泡沫の浪迷はせる生きとあるを
徳角のむりより出家して釈尊と号し奉り雲を踏み鶴を
駕する仙と雲を仰ぐられしも我を見ずい踏まれの苔よ
りれいぼ屋くに而謂を文殊の秘法ありとも七名八俗の名聖
金剛をされい文を志しと結ぶ仏の前より千梅陀を嚙
むの憂止むは時るるもせるくも神書を無めすんとり山一七日の
法を修て親族と集る名一百一三章祈持をすまの結願
のつるゝ志るわ

福田連中

七

うれむくや涙の面に出さるる仲

柳波

恩い云れをりるも嘆 埠 碁堂

思りるる日長い雲を踏迎寄りく 如石

業因り弥を入まる愈を 松川

二稿況出を云て居れるもえトの癖 仲秋

あもめ雨きり、秋雲をさの 寄山

後の月るる撫 元社 書り 仙書

婦と妹の拾 投るるかや 嘉年

弥まれ云ひよんあ雨く達たらり 牧児

降ぬりれるも山めるりる 万寄

まるくる陽をるる世界を廣け 柳舎

仏に法をも師をはつく 東泉

子福者を美るを書投の衣配り 路先

池さくらく行燈見送む　文志

右京仙行出席一項

合詠

常盤木は雪を梢の時雨　仙吉

山姿へ池さくらは雲より　春山

雪とも見るまで雪の雲もり　嘉幸

ちらし出しくてやや時くれ　鶴先

蓮の葉やちるまくまで見るの玉　牧見

性るの神とるまたや神を送り　文志

塚へ苔へ塚も一月夢時々代　梅舎

世は中へ為き廣まりく敬う蓮を　東兵

星ちるを信らみ舞ふ蓮を　卅秋

二七日

仮名連中

仮名やりよの多向ふ苦はを　於く

仮名盛りうるを　天　川二

袴を孫をもおしく涙ちるく　玄機坊

酒のうへ　きさらぎ　如雪
堪ひい市　ひの　月も　舞也
雪　雲　松　雪　月　梅　梵
月　千　雪　雪　別　深　古　情　雪　二
雪　り　て　林　宜　の　秋　寂　松　二
う　あ　く　と　雪　雪　常　侵　り　雪　二
俄　よ　歌　の　う　し　雪　き　雪　雪　水
月　の　あ　雪　の　庭　も　人　雪　家　山　雪
雪　降　り　お　い　風　も　月　よ　入　む　秋　雪

出家伝れ出座一ヒ

吾妻

悲然とうのもうれぬ星きこの那　雪二
雪　雪　風　も　今　い　雪　梵　く　白　雪　汁　雪　梵
窗　仏　水　も　深　く　よ　雨　や　蓮　の　雪　二
日　の　今　く　梵　り　ま　ま　と　と　雪　汁　山　梵
悲　嘯　や　雪　き　の　別　き　雪　物　雪　梅　松
又　送　雪　雪　新　雪　雪　や　雪　雪　雪　雪
殘　り　雪　雪　一　た　る　深　雪　雪　松　二

清川と陸奥の境の関所の名なり[illegible]
因歌にてあるべき[illegible]
[illegible]

[illegible]待れよ蓮の[illegible]て　玄機坊

二七日　羽尾水彦連中

こゝよ魂とよ稲[illegible]　文水

[illegible]おれも[illegible]の男れ　水子

月新よりの又[illegible]あるべく　文

よろの中よりれ　文り　水

猫の目[illegible]　文

[illegible]　水

[illegible]仏[illegible]略

[illegible]や蜂のうゝ[illegible]　水水

[illegible]

三七日　塩連中

西新い[illegible]柿[illegible]　一水

[illegible]もうれぬあさ霧　文素

月又は西瓜の俵[illegible]作り[illegible]　水

[illegible]うゝ[illegible]村の新田　素

うけ[illegible]く庸醫と人[illegible]ふ[illegible]　水

他所の孫く[illegible]書けり[illegible]　素

[illegible]略

五七日

[illegible]
勝田連中

[illegible]ふ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ふや[illegible]　樹蔭

子向の剛伽とゝ[illegible]蔦屋[illegible]　文耕

桂男も[illegible]りの[illegible]屋へ[illegible]さして　蹄

時代[illegible]やれを[illegible]ん〳〵　耕

[illegible]ゝ[illegible]星先[illegible]ゝ[illegible]　蹄

[illegible]を[illegible]れい[illegible]　叢吹迄む　耕

右[illegible]伝り下略

六七日

[illegible]戸連中

一の遊

人のゐし詠はさびしき蓮かな

花鳥に移る月も片彼岸　笠涼坊

初雁も市へくと羽うちそろく　圃柱

道辰ゐれは坂を急ぐなり　里风

意地に走る理に報ひも神信　志孝

芦荻の侍蓮もよき饑嗐　雪醸

次第仁り下略

吉語

散りしを詠も擊し蓮哉　圃柱

こゑ絡の鳴継ぶやりとす　里风

洗年坊之耕兎人や西武に擲子門の杰老と之誌にえらんとと一也しに好みよき事しいへともあれとも学ぶらぬく游遊ありより自他の門を揮りて風け菓子との少年より以年は戾り兄弟の間とを結ひ一日之秋の夢より六十年にそろくしきれやを後のそと病床け仰ひ一夜と投し閑居おとひに結くいへとも寞しきりれのまい事に再会もと楽人をも別まくと出く循居ありしかき待たく[illegible]者れの便りにみれは老なき病床の君劇とおもし美うやしま[illegible]月のそし免病床して残らと思う[illegible]のそ祥せとおし仕せれを悟け遊てうましと孝子如柳のこるみうの計ちうに秘ろるく双袖と志し[illegible]を持ち侍りく

身にしみる便りまくりや秋濤　笠涼坊

十三

七夕

[illegible]

瀬山連中

金魚

七夕の色紙拵へ子の祝
篠巻濃と深山雲時雨 雪之
この渡と彼方に月出朝ちから 安積
夕よりもそやくちから川永 [illegible]
言葉よくとも吹る鬼男 碎月
坂きりのうり明をあるかり 毛吉

代々けいこもはれて雨川 南川
命を占うもあれの書 [illegible]
太り肉やきうるけれ要りれを 竹濱
如意の[illegible]慧[illegible]退 [illegible]
ちらくと旭よ書る書れ顔 [illegible]
同じくちらくも粘と離い [illegible]
[illegible]て乳母の様 [illegible]
[illegible]と術[illegible] [illegible]
[illegible]ちいろもちらつ[illegible]ぎり 柳山

波寄る磯辺砂原　逸楽
神風の伊勢浦の海　岩南
吹きつる山おろし　松
永い日をいとはしの八ッ下り　古氏
玄関廣く用立て来る　三楽
高小神高山高高高高　め柳
伯父様　三岳
夕闇と陸地　も実
雪の降り積る高原　真月

ちりそそる雪の赤倒に延いされぬ　岳
明ぬ内うち用い居る　文
熊を踏い出しの場は山　精
除福の初今年　秋　寂　好
月義と書き書む　欲山
姉と妹を杉の宿下り　孫路
大入と高い年活く居好キ　月
雪祝る玉の魚北高高　子
角屋変れるの丸天セ　川

世の中よりは風ふきよりて
ちりぬるを散りぬるものとなれば　証
墨口同書に百ゑ時雨　杜声

歌伝に一出
吾詠

言の葉も今は花咲る南　俊山
ちりぬ世は時雨に更暮ぬる　杜声
梅も咲くまの向ふの塚の雪　七好
清水の枝をりて　弥路

清水やまの向の廟伝に一ト京　南川
いづの国の所清水寺は雪　酔月
世に雪の風も雪を散りぬ　又号
此方紅葉ぬるやその月　真声
常磐木の散りて行はぬ　素風
まの向ふり百味の数に成る　如柳
宮元ふる風に清水寺百日紅　等誕
行中ふ獲むるやふる世　麦吟
西へ行新の名所や夏来月　松山

うれしさや霜に弱る草の花　三楽

子の向も来るしやうきはなき　鷹之

塚に於の俤残ることぬ声する　竹溪

時鳥愛へ飛ぶのれこうれ一口声　新呈[?]

こぼ魂の酒気をすや飛ぶ蛍　逸提[?]

ゆくゝ川移も風の薫りけり　花氏[?]

懐きやうしてしる送る秋の旅　包溪[?]

一ト声も皆うしなる時鳥　三岳[?]

ちりゝ子や孫と抱く晨の月　蒼南[?]

渋率坊之新花の手向寄年の
おしくなとく

草活りお化もまくりしき清水に　有峰[?]

[illegible]

月花のこれに関し帰水鶴
枚下庵　章之[?]

石ヶ貝

顧世らしも榊檀のゆかりに遂れぬ身に文字をも杢様の語は絶て
ともやうつり我師坊いぬる此年月中のころ雪うち浄ち人金を称し
かつてり親族は添ひよ手紙是はし言ふく同事かの寄なれり
村更の淡く此の実に常しく金銭文例して聴き出し ことも
いはしう事実さてありしとのつゝ重み七ヶ所の達手紙
四季に抱き供佛施僧の営みて接し一夜負ひとう人へ女
高まりと携ふてなさりぬく予に葉し其の中しも執中さわと
我は其家の教を手紙よ墨うして支まん下行虜色うまふしても
まう思轄りもの離うさせは只余歎文あさ人とさまして以前しこの
神縄と爰め候なりけと

文雅亭
安積

鞍馬やまき紫蘇の花も供花

ともに数珠作らん月 義川二

ゆくし露にぬれつゝ来れ嵯峨にて 栭波

山の緒はれ静も廣く ぬ石

香ばい捧くしまよ条とまし 含糸

油気の光は白髪むつ清く 松声

綾の銘うつろひし穹くなり 文恵

猿は生姿に火桂してあ家 一水

菓しは雪の扉へよ入果子 徐路

竹の香はい喰ひぬ飯茎 文水

語りかして此さうても尽んえ梅柏 文耕

[illegible]里塚うち町いたいたこ　喜声
[illegible]　めぬ
年よ仙人あれ寿[illegible]　彩二
[illegible]　仙玄
おちこち吹きはも[illegible]入ム　牧児
一面よ指も深う后来月　寿
男の指よ延て彩麦麦　拾
世北中い弄指の[illegible]活久り　[illegible]川
出[illegible]ちあれい入ぬまもまま　寿山

[illegible]　楚源坊
水神[illegible]て　来行く　可逐
時[illegible]雀の[illegible]より　想意
田会い寺も作の[illegible]分　東泉
[illegible]人も[illegible]る狂いぬけ　玄機坊
岩石負お[illegible]一頃

追悼

東行連中

[illegible]年[illegible]二[illegible]人や投[illegible]一[illegible]の第[illegible]一[illegible]を順[illegible]称[illegible]の一[illegible]
[illegible]一[illegible]病[illegible]れ[illegible]弔佛の加[illegible]計業の[illegible]部も

[illegible]

葉月も末なる甲斐なり　山伏　許

又月雨晴後　神祇　続りて　英文

学て　[illegible]　や　拾て　清おと　止雄

一株も　白　こゝろや　蕾の　水　雨後

武蔵和連中

福田三門を[illegible]　[illegible]

初冬の淋しさ　[illegible]

水無月の　[illegible]　清　紀寿坊

[illegible]　甲斐なり　不知　示唆

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　茶屋

へ　おや　おり　[illegible]　[illegible]　[illegible]　文紙

月の　[illegible]　[illegible]　[illegible]　伏り　孤月

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　朗月

[illegible]　の　[illegible]　[illegible]　[illegible]　松本

[illegible]　甲斐なり　[illegible]　[illegible]　女　[illegible]

大河内連中

[illegible]や風[illegible]の[illegible]
[illegible]や[illegible]甲[illegible]
和詩　一旭

和[illegible]の[illegible]縁[illegible]　曉翼
[illegible]へも[illegible]と[illegible]

[illegible]仙門　甲相連中

[illegible]

[illegible]の[illegible]風[illegible]

[illegible]　[illegible]　二

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　一笑

[illegible]の[illegible]　平拯

[illegible]　牧牛

[illegible]　[illegible]

[illegible]　晴月

[illegible]又[illegible]毎[illegible]　古堤

[illegible]七月の[illegible]　[illegible]

強り言れたる鞍の言も格別と　一思
白面時れて鞍く候系る　九拍
神主を爲帽子の紐に作流　路格
座の掃除とまたゆむ事　秀吉
を飯うられいてもしいく　思川
毛氣の代りを長れ時声　已月
咲くもむとおもうもを嫁も姫　戸友
新と鏡しむ白面の酔　濱泉
細も猪を屋代引事場　也系

三　京都小中石地蔵　京吉
今ようを爲を筆の小万葉屋　鞍宗
別もの事鞍と咲ける　和拍
中刺の張ふをの入をを　和柳
水黒毋ふと光る板の向　里泉
をををを爲ふ指れ眠を　上元
八ッ半七ッ半京るの日の　弥也堤
時世を寄る事山のをの　二松
香り角方ようを里をむく　月秋

夢ゝ語り傳へて大ことものの跡機姫　星格
伊織　宝と書くまくむ　東山
張りしを故の術と張嶽の奥　梅屯
おもかるもも伝う蓑　羽蓑　自蓑
ひすもたくしく天もあいたりう　星玉
明るの三ゝ夢風いかり　明玉
ゆゝしられもの色書世ゝ張り　夢賀
於も弱ゝも弱ゝ　雙松

浅年紀二辨多人市図一世ゝ考ゝ山門ゝ陽ゝ
ゝ書ゝ一日後条の杉も澤氏経ゝ書き後のゝ世あゝ書ゝ嶽いゝむ

此別を時ゝ書ゝむや夜千ゝ　文和坊

上総連中

手縄のめゝてゝや輝ゝ云　柳の坊
雪ゝ中絵ゝ書ゝ書ゝ　宗之坊

名歌

生て碑の著ゝうゝめ生涯蔵　福田　如石

雪解や柳ゝ新らたあらひ　繁　柳枝

佐保姫の霞ゝ八重織　敬川

西ゝ霞ゝ色の霞ゝむ色の霞　慈童

柳ゝ新緑そゝ枝やあれ行月　嘉年

世ゝ山ゝ霞ゝの代ゝ霞ゝ　文志

九十九ゝ霞ゝ霞ゝい行あや霞ゝ　柳舎

茅蜩酒雲ゝ十あの霞ゝ　東泉

鳴ゝ霞ゝ行ゝ霞ゝ　牧児

風ゝ声清ゝ霞ゝ千ゝ霞ゝ　竹也

いろゝの石ゝ苔ゝ霞ゝ　春風

はゝ霞ゝ霞ゝて霞ゝ霞ゝ　吉静

又月霞ゝ霞ゝ霞ゝ　慶雨

若草や霞ゝ霞ゝ霞ゝ　素山

柳ゝ霞ゝ霞ゝ霞ゝ　仙素

稜ゝ霞ゝ霞ゝ　竹我

稜川や稜ゝ霞ゝ　文恵

片ゝ霞ゝ月ゝ霞ゝ　雄

人霞ゝ稜ゝ霞ゝ　一水

書初や霞ゝ　勝田　文舞

新米の白さや月も菓子ころ　梅嶺
花入れに山の艶や残暑雲　羽尾　文水
散らしく日の暮りし冬ちぬ　水房　小ゟ
錦きゝ月まゝ吹く日や秋日干　伴子　梅之
風やまよひしく枝小菜　宗二
苗代や柳の露り張り　め栞
まりしく其壁まて嵐く咲南宗紀　且飛
志ゝ枝の雲りや月もおろろ哉　松二
草枕や遊てくたゝる部の声　蘂枝

海れの霞飯しし葉咲くん　青水
夏菊や夕影れ風まあゝん菜　山枝
月も寂まおしく秋の涼しさ　青二
絵る枝やきの夢よ様先　川二
後ろ里の田植や川れ片濁り　畠山　常高
浸しおくさやしの表やめる流れ　三千尾　飯山
ゐふさ下女戸残さきや月の枝　花好
まよ山の揉みりさまや雛子の声　南川

水鳥の羽ばたきしぶきの音　線路
河岸や流れに沿ふ小径　松声
青柳や柔らかく枝の撓む時　下京　酔月
木の花や夜風に埋む樹下　又雪
秋更て毛氏青細の音　柳山
遠い鼓の声と呼ぶ　等延
秋の日暮れ　きらめく敷茵　如柳
秋風や夜待顔の女人　雪之
新酒の風味　柳の青日

子の月風に停まる時　三楽
雨上や毛氏の声の響く　青声
雨や毛氏　不定　陽炎の影　支吟
寒の月　刑いかるる　金岳
明行の撥　なる水の音　上世　逸樂
夜寒い枝を月　南ちよ　芳信　吟濱
鼓　月の夜の月　知之
対切れる風　新　川京明戸　可逸
雪山の雪　月よ高く　里風

飛石の幻きえ月かけや夏の雨　雪鱗

綾ろかう不動縛りや暮るゝ川　團扇

香みて卯ゑもちや牡丹のちり月　明戸 如山

此秋くまるゝ里あるゝ雲車の跡　素山

箱柱ともこのこすまりち雨干　志孝

短冊の序けよ葉おち柚の卯　静く舎

草鞋よ小石挟まる泊干乃香　玉井 在氏

若葉まろもなみよ濱の暑さかな　折口 也濱

きみしの露まゝの露りや雲の峯　三嶽

暑き日や午飯の菜佗びしさ　衆山 泰風

帆む口寒きりり素者雨　作理

露むも餅よ薮りまりゑ桔梗の花　安精

家々帳の粉井呼りりく時雨かな　玄機坊

音羽こゝ立て見しゑゝ亀　笠源坊

時雨りしや去来の墓の坂の下　枚下居

法玉各探

陽炎や人の心のまゝりとより　東邦 山許

みさく松の梢すゝりかや小松川　止騰

[illegible]女子の連や[illegible]れる物　英文
山里の[illegible]や[illegible]　素淡
鶯鳴れ[illegible]の[illegible]　一分
[illegible]や[illegible]　外松
[illegible]の[illegible]行初[illegible]　梅花
[illegible]や[illegible]　武浦和　松平
[illegible]の[illegible]の[illegible]　朗也
[illegible]や[illegible]　久祝
蔓畑や[illegible]の[illegible]　孤月

[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　武大岡本　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　相州サノ川　[illegible]
[illegible]や[illegible]　[illegible]
[illegible]や[illegible]の月　[illegible]

[illegible]　年松
蘆うゝたれすまるゝ人のこゝろ哉　晴月
小萩よりこぼれ出てゝ相撲うゝ　徐樹
留代やうゝ[illegible]紅葉　秦宣
[illegible]の[illegible]　溪水
[illegible]　已月
[illegible]　雙松
[illegible]の月　抽丸
一ト声よ[illegible]　里玉

一ト雪よりこゝ[illegible]　白堤
畑よ宮ゆくゝ[illegible]大根川　[illegible]
[illegible]　桑名
[illegible]の市　大ノ穀宗
[illegible]
[illegible]の声　上毛
[illegible]　和松
[illegible]　一矣
[illegible]　黒川
[illegible]　甲子

[illegible]月　竹二
[illegible]里い絡ゑ殘る[illegible]郷　甲丹上ノ系　[illegible]
月[illegible]蕭蕭　如竹
当接の[illegible]時[illegible]　[illegible]秋
[illegible]月[illegible]の[illegible]　牧牛
眠られぬ[illegible]　月秋
[illegible]の角ト角[illegible]の[illegible]　古堤
[illegible]　[illegible]　里泉
[illegible]竹の[illegible]　七葉

振袖の[illegible]　几帳
振[illegible]の[illegible]　楽ム
[illegible]　和榊
[illegible]人[illegible]嵐　自泉
[illegible]の郷　二松
時[illegible]里や[illegible]　七葉
一ト筋[illegible]流る清[illegible]郷　一思　上ノ系
[illegible]　文和坊
[illegible]佛の[illegible]　上井小系
[illegible]の[illegible]　榊坊

夕暮い寒くもかれて秋の殘　宗二坊

雲の山方へ枝ふる柿うり卿　伊勢行幸　[illegible]

吹寄る月吹寄て秋深し　[illegible]村名　孤雲

山ゑを月ちらすあさくらり　里渓

雲ゑゑみりく梅もはの姿うり　出羽　[illegible]

月氣ゑ程深しかや萩ゑ　[illegible]

南へ山雲ゑ　[illegible]　秋　雙[illegible]

余興

三ッ物

三歌の梅もゆるむ春の色　川二

降く月は氣ゑ樹ふる雲　如石

法ゑ花ゑ秋氣ゑの侍ちく　[illegible]

跋

此集や孰中古川之ゝ五被家をよんりくるある和歌くり梓師坊
好ハ案京氏偉ハ移方義字ハ退之初さより笑宝庵をさし
しく人の頑をいそれ己名をよ玖経しされ世丸廣説よ報るす
あり雲を稼穡ん勤めく息しはまそり紫あふの間よく
こゝ盈比のたゞよ志を運ひ紫門下よ入りく鍵沅るの牛家を
はかれ守方よ甚谷養く少人待ろ秘をよ許される書氏脇ハ
とも宰人従事を深く没えまちなく俳諧ふなを仮す級よ掌数
入られきり去なりて靍翁を好むの癖ありて翁ハ風雅を

むまりとはへき枝翁の人ゑ式煩き神風の伊勢浦してい
五十鈴川の流をまさとろくの浮を式拂ひ新をまひ江の路は
枕とむまりくハ八甲山の名をしおそわれて吉野初瀬のむら深
も更科明石の月よをまふひ加茂川の流をし墨田のちうれ
まゆるまるみひとつまりて都ハ今や奥羽よ細尾の径を
たとり松島よ笑ひ象潟よ恨き北海のあら磯を波よ追はれ
砂よ実まくまるれのゆ塚おまくし式田のまく所ふ子めの雪
蔭よ倦してハ八珠の法味よ錫を卸し致おやハいかもさ猿ら
ふも気よりまく金風の淫ちまし写生の香を浅号の梗を

同じく牧ひロまさきさうてんの作さ陵湾をえ一トとせ山作山
湯ふひ沼沼そうひ鐵ものをを紅と鐵ひ沼橋をの粉風
家時をえ物ロ重いつも重ちしし中國に出紙ひれも
猫ともすしして技業の屋さ名猫ひをしぬ火の紙紫のを
弗しし徐のあし山巻ちして巻しさちるし江湾をし
船さちるし杖の出ろ和さをうけ風系を嘯さ矢を出
系紙輝幸を殺のをしをれをるし仕事保系降
の温泉のふいをと巌し巻暑の避事和して仕仕ろ杖
湯れ沼を乗ひも湾沼敬を四千仕ををひしも知る物の

ろをとられ沼序ようを又條の或を辛り沼いを鐵の橋と
砂しされ宮をを多ひ巻巻の風絡人ふい世ひ人のををををふを
和ものりをを鐵和命の坂とるをし山里とをを仕しをる
大敷ちりもし紅をふ名と世ものしる世系紙姫ひ郎陵紙
鐵ものり辞して名紙二耕を改名牛ふの二宮紙年り
陵ちもををるい橋を仕沼とをふをの巻ものれい牛のをと
橋を橋し宮ひの幸と毒ものり宮を毒橋し名ををし也
世名の沼を橋ちる志して陵いひを橋るををとられ山橋を
入をいいを振り田圃をもくい湖ををのひを巻のををを志

ぬい寅よ二耕の石心侍るへ一奏生のまこよ多り一トたひ
嘱よおくれ機を傾ものしよりの徐事は移よ多るを佛僧の
二世紙高れきるハ氏を石心侍所の宮西こりのりれさ色い是
等れり状を嘱よあくやしく法恩を報ふ一しと生死の流
紙はまこうて高り拙さ本と陸く文雅亭妻接接くロス

成簡堂

洗年庵遺稿

茅巌や京とを淡とくあるけ元
野辺の住よ出れ行る茅巌 猫
ゐる士も頃の口切るくれ居るれ
市解や市町と東野の宗り亜
ちと亀くい殘る柿赤木の黄ゐ
紙はへやさらんた嘱紙義よえセ
井猫や祈りも法り参る岩
酔と吞くとちとこのあり二十大柘

畑ちやうこう月の松し蟬
聲松やりしを誰こゑかつるセ
人こゑ絶こと松く蝉うち
まゝ雨やはきしくこゑし探り色し
ゝ屋と名ゝこゑの高低うれ
まゝしや雨降の音ゝ聞りよ久
張のうくゝ鳴ゝ蟬あり乙うち邨
所柴垣の人まと思ふ音く田鶴ゝ
淺めぬ宮よ鳴ゝ臥まし夢の雨

柳の枝ゝ風はゝ柳うち邨
鳴ゝ蟬ゝも音ゝの遠ゝ山や晩 柳
下戸の世ゝ酒ゝ酔ゝ山ゝ愛ゝ
ふゝ涼屋ゝ一けいゝ聞ゝきしの声
音ゝ宮ゝ蟬ゝ離ゝ遠ゝ屋や夜干 稲
うゝ峠や桃ゝ咲ゝ村ゝ山ゝ
蟬ゝ鳴ゝ蟬ゝ聞ゝ絶ゝ山ゝ 釜 時
蟬ゝの音ゝ山ゝ柳ゝ枝ゝ山ゝ
十ゝ絶ゝ蟬ゝ涼ゝ牡丹ゝ

法華経や諸人参詣
去きしや石みがるゝ文字
はしらはしら法の格あるまま 杜若
この方合ゝ一ト声やはしらむ
外のるや参詣ふ合いまゝ法
取まり大し自ゝや仏刹む軒
きはゝ一やあり〳〵風の格りけ
葉の色深ゝや井来落れ多
うゝ向いゝ合きゝ百合の色

極楽経巻れ永ゝ月面
未格むや足も巻りの色七々
白面やゝ行ゝ行ゝあるより
格りれ修遊い格り田まり
雲下や経の巻あゝ巌来る
夕立や面はゝ汗よめゝ又
若竹やゝ一雫ゝ秋る連
五ゝ格ゝ月も辺りや蓮の色
三重も初ゝめ味あり若清れ

こゝろとめ聞くに花の青田うゑ
ホトトギス鳴くや百日紅
藻の花咲くやみなの白ふ川
白色のうふかたく居り雲ぞ
夕月や女ゝこゝ市しく色まみ
雲鼠やむしり取れ家ふかく咲き
秋高めて風の雲内や愛宕山
あゝと鳴く雲やや百日紅
元遠く星い格子の天の川

秋月や鳴く雲ぞ行ふれ
弱の歯とのわく秋の尾ぞ
稲妻やひらくくゝめ蛙の穴
京筵ぬ身もとゝ鳴や蛙の声
枝折とて雲柳つまるゝ秋
京路ゝ行く時切る雨ぞ
待宵や宿の雲ぞ一コトり蛙
郭ゝ行く蛙ぞ京おぞ
蛙の声ゝ行ふ雲の月ひふ

砥波の神祭擬しやまのゝ行
名月や是も住りし行基堂
住りしより新地のかやゝの夜
武蔵野も月しぼりあり山の月
赤松畑やゝも鼻まゝに蓼の風
ふの字屋ゝ星ゝ石ゝ紫ゝ
佛樓ゝ実ゝ古月ゝ影ゝ
赤松ゝ沈やゝ夢ゝ鶴の頻ゝ山
なゝゝやゝ新蓼ゝ吟ゝ蔵ゝ

まゝゝ百度ゝ参りやゝ時雨
可人ゝ人ゝ多ゝゝ参りゝ秋の雨
移ゝゝ温柿赤ゝ秋ゝ蓼
川秋やゝ十八温ゝ柿ゝ
鍾ゝ雪ゝ陰ゝ移ゝ
新貸ゝ細ゝゝゝ枯ゝ
炭竈やゝ温の白い都ゝ
風やゝ砂ゝ埋ゝ畑
星ゝ井ゝ形ゝゝ

[illegible]
牛を殺あて[illegible]を送る時[illegible]
猫[illegible]
[illegible]川の人遠[illegible]
一[illegible]
[illegible]
町[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

切手をもらひに油屋
とゝ屋へ使に左彦

摺武鑑江戸
物御用達
所会津藩